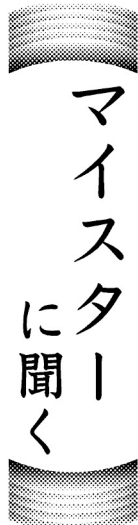


西尾鉄工所・社長



工作機械加工

西尾 修さん



マイスター  
に聞く

117

西尾鉄工所（大阪府八尾市、072・923・0061）は、3代にわたる鉄工業。現在の西尾社長は若くして職人の技量を身につけ、旋盤、シェーパー、フライス盤、ボール盤といった汎用機での加工に今もこだわる。だが時代は数値制御（NC）加工機の全盛。営業べたな職人の殻を破り、インターネットで情報を発信し、NC機の基礎となる汎用機教育の提案に動きだした。工程を広く見渡して勘所を見定める力を自負する。特に、部品同士のはめ合い部の加工は腕の見せ所。後工程の組み立ての生産性を左右する部分

だ。その総合的な腕前で、2014年11月に地元・八尾市から「八尾市ものづくり達人」に選ばれた。例えば、ある機械メーカーからの依頼は、パイプ状部材の外周に微妙な摩擦面を帯状に形成させる特殊加工だった。頼ってきた外部の職人が引退後、こなせる町工場が見つからず、西尾鉄工所を訪ねてきた。「使う部位を教えてもらい、素材を見直し、焼き入れも工夫。加工は汎用旋盤で注文通り仕上げた。1割あった不良率もゼロにできた」。08年秋のリーマン・ショックで仕事ゼロの状態にあえぎ、自慢の職人技だけでは仕事が来なかつ

汎用機で技術教育に挑戦

た。そこで以前から温めていた、工作機械の自作という夢を実行に移した。高校を卒業して中堅工作機メーカーで一時期勤めた経験も生かそうと判断。設計1年、製作に1年かけ、汎用フライス盤を仕上げた。その製作経験を通じ、NC加工機を使いこなす能力養成のため、汎用機を使って機械の設計・加工・組み立てを一通り教える教育事業を着想。学び手のニーズに合わせたメニューを作り、14年に「汎用旋盤職人養成講座」の看板をウェブ上に掲げ、募集を始めた。

「聞けない無理を言う取引先が増えた」とため息まじりの文句も出るが、粘り強く職人技を売り込む。

（東大阪支局長・佐々木信雄）

（水曜日に掲載）